

1. 第7期事業計画の進捗状況及び次期計画への課題

高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画に掲載した地域課題について、課題分類別の進捗状況及び計画期間中（令和2年度末）の達成見込み並びに次期計画への課題について以下のとおり取りまとめました。なお、令和元年度の件数及び令和2年度における見込み数に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により件数が減少している事業があります。

① 認知症関連（認知症の方が在宅生活を継続するために）

不足している社会資源（課題）		計画期間中（H30～R2）の取組																							
・ 認知症の早期発見・早期治療につなげる体制の構築	⇒	・ 認知症初期集中支援チームの立ち上げ（医師によるアウトリーチも可能）（H30.4.1 設置） <table><tr><th rowspan="2">項 目</th><th colspan="3">件数（R2 は 2 月末現在）</th></tr><tr><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th></tr><tr><td>窓口チーム訪問</td><td>49</td><td>60</td><td>33</td></tr><tr><td>クリニックチーム訪問</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td>医師訪問</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>合 計</td><td>55</td><td>61</td><td>37</td></tr></table>	項 目	件数（R2 は 2 月末現在）			H30	R1	R2	窓口チーム訪問	49	60	33	クリニックチーム訪問	3	1	3	医師訪問	3	0	1	合 計	55	61	37
項 目		件数（R2 は 2 月末現在）																							
		H30	R1	R2																					
窓口チーム訪問		49	60	33																					
クリニックチーム訪問		3	1	3																					
医師訪問	3	0	1																						
合 計	55	61	37																						
	・ 認知症初期相談窓口の開設（H30.4.1 開設） <table><tr><th rowspan="2">項 目</th><th colspan="3">被相談者実人数 （R2 は 2 月末現在）</th></tr><tr><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th></tr><tr><td>相談件数（ ）内は新規</td><td>100</td><td>129(119)</td><td>146(121)</td></tr><tr><td>内）初期集中支援チーム扱い</td><td>43</td><td>18(7)</td><td>14(7)</td></tr></table>	項 目	被相談者実人数 （R2 は 2 月末現在）			H30	R1	R2	相談件数（ ）内は新規	100	129(119)	146(121)	内）初期集中支援チーム扱い	43	18(7)	14(7)									
項 目	被相談者実人数 （R2 は 2 月末現在）																								
	H30	R1	R2																						
相談件数（ ）内は新規	100	129(119)	146(121)																						
内）初期集中支援チーム扱い	43	18(7)	14(7)																						
	・ 認知症地域支援推進員の設置（H30.4.1 設置） 介護福祉課に常勤保健師を配置																								
	・ もの忘れ予防検診（認知症検診）の実施（R2.10.1 開始） 65 歳以上を対象として市内 12 ヶ所の医療機関で実施 受診状況 <table><tr><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>合計</td></tr><tr><td>8件</td><td>1件</td><td>1件</td><td>1件</td><td>11件</td></tr></table>	10月	11月	12月	1月	合計	8件	1件	1件	1件	11件														
10月	11月	12月	1月	合計																					
8件	1件	1件	1件	11件																					
・ 徘徊している方を早期発見する仕組み作り ・ 地域における認知症の正しい理解の推進と見守り体制の構築の支援	⇒	・ 既存サービス(徘徊探索)の活用、周知の徹底。また、運用を見直し、徘徊している方の早期発見の仕組みを構築検討 ・ 認知症サポーター養成講座の実施 H19～R1 年度の実績：231 回開催、7,634 人受講 受講者へのフォローアップ研修及び活躍の場の提供について検討中 H30 年度実績：26 回開催、1,184 人受講 R1 年度実績：19 回開催、601 人受講 R2 年度(令和3年2月末現在)：4 回開催、54 人受講 ・ キャラバン・メイトと共にサポーターの活用を考える会 令和2年12月よりキャラバン・メイト同士の連携を図り、スキルアップをしながら、認知症サポーターの活用について検討連絡会を実施。																							

		開催状況 <table><tr><td></td><td>開催日</td><td>参加人数</td><td>内容</td></tr><tr><td>第1回</td><td>R2.12.18</td><td>6</td><td>キャラバン・メイト同士の連携、サポーターの活用について、</td></tr><tr><td>第2回</td><td>R3.3月</td><td></td><td>日程調整中</td></tr></table>		開催日	参加人数	内容	第1回	R2.12.18	6	キャラバン・メイト同士の連携、サポーターの活用について、	第2回	R3.3月		日程調整中																				
	開催日	参加人数	内容																															
第1回	R2.12.18	6	キャラバン・メイト同士の連携、サポーターの活用について、																															
第2回	R3.3月		日程調整中																															
・認知症カフェが少ない	⇒	・市内3ヶ所目の認知症カフェを精神障害者施設との連携により市庁舎内1階喫茶コーナーに平成30年10月より開設。毎月第3水曜日13:00～15:00に開催 令和2年10月現在、市内4ヶ所に開設 ・民間カフェとの協働による開催を模索。町田市におけるスターバックスコーヒーとのコラボによる認知症カフェを視察し本市における民間とのコラボの形式を検討中。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点より渉外が一時的に中断。 ・認知症カフェ連絡会 認知症カフェ担当者間の横のつながりを持ち、情報交換及び効果的な運営を図るため、令和2年8月より連絡会を4回実施。実際の介護者の声を届けられるように冊子を作成中。介護者も会議へ2回出席。 開催状況 <table><tr><td></td><td>開催日</td><td>参加人数</td><td>内容</td></tr><tr><td>第1回</td><td>R2.8.28</td><td>4</td><td>顔合わせ、各カフェの取り組みについて</td></tr><tr><td>第2回</td><td>R2.10.21</td><td>8</td><td>各カフェの内容紹介、介護者向けパンフレットの作成について、</td></tr><tr><td>第3回</td><td>R2.11.26</td><td>9</td><td>介護当事者の声を活かした冊子について</td></tr><tr><td>第4回</td><td>R2.12.23</td><td>8</td><td>介護当事者の参加によるパンフレット作成</td></tr><tr><td>第5回</td><td>R3.2.5</td><td>6</td><td>パンフレット作成（レイアウト・内容）</td></tr><tr><td>第6回</td><td>R3.2.19</td><td>6</td><td>パンフレット作成（役割分担）</td></tr><tr><td>第7回</td><td>R3.3.11 予定</td><td></td><td>パンフレット作成</td></tr></table>		開催日	参加人数	内容	第1回	R2.8.28	4	顔合わせ、各カフェの取り組みについて	第2回	R2.10.21	8	各カフェの内容紹介、介護者向けパンフレットの作成について、	第3回	R2.11.26	9	介護当事者の声を活かした冊子について	第4回	R2.12.23	8	介護当事者の参加によるパンフレット作成	第5回	R3.2.5	6	パンフレット作成（レイアウト・内容）	第6回	R3.2.19	6	パンフレット作成（役割分担）	第7回	R3.3.11 予定		パンフレット作成
	開催日	参加人数	内容																															
第1回	R2.8.28	4	顔合わせ、各カフェの取り組みについて																															
第2回	R2.10.21	8	各カフェの内容紹介、介護者向けパンフレットの作成について、																															
第3回	R2.11.26	9	介護当事者の声を活かした冊子について																															
第4回	R2.12.23	8	介護当事者の参加によるパンフレット作成																															
第5回	R3.2.5	6	パンフレット作成（レイアウト・内容）																															
第6回	R3.2.19	6	パンフレット作成（役割分担）																															
第7回	R3.3.11 予定		パンフレット作成																															

・ゴミだし支援

※当初は認知症の方への支援として課題にあげたが、高齢者全体の課題でもあることから、全体課題の取扱いとした

⇒

- ・田中町住宅をモデル地区として65歳以上の住民を対象としたアンケートを令和元年6月に実施(645通発送、344通回収)この結果をもとに高齢者のニーズを分析し、当該地区にて報告会及び懇談会等(計4回)を開催。参加者から有志で田中町団地を暮らしやすくするために考えていくメンバーを募り、令和元年12月より話し合いの場を実施。令和2年12月に先進事例として立川市大山団地へ視察、振り返りを行い、今後の取り組み方針を決める。令和3年度中に、地域に密着した高齢者支援組織の立ち上げにむけ調整中。

メンバー話し合い開催状況

	開催日	参加人数	内 容
第1回	H31.12.18	16	メンバー顔合わせ、自己紹介、困りごとについて
第2回	R2.1.22	17	地域資源について
第3回	R2.7.22	10	振り返り及び社会資源について
第4回	R2.9.23	12	認知症市民ひろばについて
第5回	R2.10.28	11	今後の活動について
第6回	R2.11.25	9	大山団地の視察について
視 察	R2.12.14	11	立川市大山団地視察
第7回	R2.12.23	10	視察の振り返り
第8回	R3.1.27	12	市の方向性、昭島の政策課題について
第9回	R3.2.24	14	地域包括ケアシステムについて

- ・都営中神第3アパートをモデル地区として選定し、自治会長、住民に対して調査を実施。令和元年度に自治会長が変更。新会長と顔の見える関係を築き自治会役員とも協議を進めている。

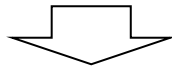
・拝島団地中央連合自治会

令和2年10月に市民部生活コミュニティ課へ初回相談。庁内連携により生活支援コーディネーターへ繋ぎ、拝島団地中央連合自治会、市担当、生活支援コーディネーター、地域包括支援センターにて協議。その後、生活支援コーディネーターが実態調査を行い、支援体制を検討。他市の取組事例から清掃センターによるふれあい収集事業について協議するが対応困難。生活支援サービス事業にて、他市事例を調査し、地域の住民主体による支援体制を自治会と行政で連携し検討調整中。

取組経過状況

	開催日	参加人数	内 容
電 話	R2.10.5	—	介護サービス利用者のケアマネジャーから包括へごみ出しシステムについて相談
来 庁	R2.10.13	—	自治会会長が市役所へ来庁し相談
第1回	R2.10.22	9	市、包括、生活 Co、ボラセンにて情報共有、今後について打合せ
第2回	R2.10.29	5	自治会長、市、包括、生活 Co

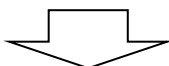
					にて打合せ
	来 所	R2.11.11	—		自治会長が社会福祉協議会へ 来所し相談
	調 査	R2.11.19 ~R2.12.11	—		1~8号棟、11~12号棟へ聞 き取り調査
	第4回	R3.1.7	4		市(生活 Co 担当、清掃センター 担当)、生活 Co にてふれあい収 集事業について協議
	第5回	R3.1.8	6		自治会長、市、包括、生活 Co にて打合せ
	調 査	R3.1.14 ~R3.2.16	—		25市町村へ生活支援サービス 事業に関するアンケート調査



【今後の取り組み】 高齢化社会において、認知症は社会的な課題であり次期計画においても引き続き取組を推進する。
--

② 移送関連（高齢者の引きこもりを防止し、外出機会を向上するために）

不足している社会資源（課題）		計画期間中（H30～R2）の取組
・サロン、体操教室、銭湯などへの近場の外出時に気軽に利用できる交通手段 ・介護施設・病院への移送、施設内での移動支援 ・外出時のサポート	⇒	・他市の取組なども調査し、本市において実現可能な方法を検討したもの、多くの高齢者が望む「出かけたいときに、行きたい場所へ、安価（無料）な料金で」という移送サービスを地域資源やボランティアにより実現することは困難であるとの結論となる。 ・病院によっては独自に送迎サービスを行なっている →情報を集約し広く市民に提供 ・インフォーマルなサービスとして実施している介護事業所有り。ゴミだし支援と同様で、地域に密着した高齢者支援組織が地域に立ち上がることで実現可能か検討
・Aバスの路線拡大	⇒	・令和2年度中に1路線増設。しかしながら、高齢者の移送問題の抜本的な解決には至らない。 →Aバスでは高齢者が望む移送手段としてのニーズを満たすことはできない。

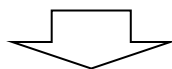


【今後の取り組み】

引き続き、好事例等の情報収集に努めるとともに、目的地（サロン等）を徒歩圏内に充実していくなど、移送自体を不要とするなど発想の転換も必要である。また、介護事業所等の民間企業の協力についても、どのような手法が可能であるか調査研究を継続する。

③ 活動の場の充実（市民が活動する場を提供するために）

不足している社会資源（課題）		計画期間中（H30～R2）の取組																																																											
・サロンの充実 （理学療法士がいて運動できるサロン、保健師や栄養士などがいて専門的な支援が受けられるサロンなど）	⇒	・地域リハビリテーション活動支援事業の実施（H30.6） 主に 65 歳以上のメンバーで構成されているサロン実施団体などを対象に専門職(作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、保健師、看護師、栄養士等)を無料で派遣しサロン活動等の活性化を図っている。なお、R2 年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、サロン活動の自粛がなされたため、地域リハビリテーション活動支援事業の派遣回数に影響があった。 ※派遣時間は 1 時間程度/回 ※派遣回数は 2 回程度/年（R2 は 1 月末現在） <table><tr><td></td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>派遣団体数</td><td>14</td><td>21</td><td>1</td></tr></table> <table><tr><th rowspan="2">職 種</th><th colspan="3">派遣回数</th></tr><tr><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th></tr><tr><td>作業療法士</td><td>4</td><td>5</td><td>0</td></tr><tr><td>理学療法士</td><td>7</td><td>7</td><td>0</td></tr><tr><td>看護師</td><td>1</td><td>4</td><td>0</td></tr><tr><td>言語聴覚士</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>合 計</td><td>14</td><td>21</td><td>1</td></tr></table> ・サロンの立ち上げ支援講座の実施 <table><tr><th>開催日</th><th>対 象</th><th>参加人数</th><th>内 容</th></tr><tr><td>H31.3.7</td><td>サロン運営者向け講座</td><td>10</td><td>チラシ作り講座</td></tr><tr><td>H31.3.29</td><td>サロン開始者向け講座</td><td>14</td><td>地域の居場所づくり講座</td></tr><tr><td>R2.2.20</td><td>サロン開始者及び運営者向け講座</td><td>13</td><td>サロン運営者によるサロン運営講座</td></tr></table> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施せず		H30	R1	R2	派遣団体数	14	21	1	職 種	派遣回数			H30	R1	R2	作業療法士	4	5	0	理学療法士	7	7	0	看護師	1	4	0	言語聴覚士	1	1	0	薬剤師	0	2	0	管理栄養士	1	2	1	合 計	14	21	1	開催日	対 象	参加人数	内 容	H31.3.7	サロン運営者向け講座	10	チラシ作り講座	H31.3.29	サロン開始者向け講座	14	地域の居場所づくり講座	R2.2.20	サロン開始者及び運営者向け講座	13	サロン運営者によるサロン運営講座
	H30	R1	R2																																																										
派遣団体数	14	21	1																																																										
職 種	派遣回数																																																												
	H30	R1	R2																																																										
作業療法士	4	5	0																																																										
理学療法士	7	7	0																																																										
看護師	1	4	0																																																										
言語聴覚士	1	1	0																																																										
薬剤師	0	2	0																																																										
管理栄養士	1	2	1																																																										
合 計	14	21	1																																																										
開催日	対 象	参加人数	内 容																																																										
H31.3.7	サロン運営者向け講座	10	チラシ作り講座																																																										
H31.3.29	サロン開始者向け講座	14	地域の居場所づくり講座																																																										
R2.2.20	サロン開始者及び運営者向け講座	13	サロン運営者によるサロン運営講座																																																										
・ボランティアとしての活動の場	⇒	・地域における助け合い組織の立ち上げ支援。（田中町住宅モデルの普及） ・ボランティアセンター（社会福祉協議会）の普及・啓発																																																											

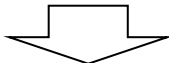


【今後の取り組み】

サロンの数は順調に増えている。引き続きサロン立ち上げ支援に注力し高齢者の集いの場の充実を図っていく。また、今後は、地域をより細かく分析することでサロンの空洞地域を無くして行く。ボランティアについては、地域における助け合い組織の立ち上げの支援が、ボランティア活動を希望する方の受け皿として機能すると考えられることから、それらの取組と総合的に取組むことで地域の活性化にも寄与していくものとする。

④ 男性高齢者の課題（男性介護者をサポートするために）

不足している社会資源（課題）		計画期間中（H30～R2）の取組																											
• 男性高齢者（介護者）の集いの場（男性介護者に対する、料理教室や介護の知識など気軽に学び情報交換のできる場所）	⇒	• 男性高齢者(介護者)の集いの場の開設として、介護を終え、深い悲しみから立ち直るためのグリーフケアを必要とする方が集える場 →「グリーフと向き合うつどい」の開催（R2.5月より、月1回の定例会として開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から7月より開催。 実施状況 <table><tr><th>開催日</th><th>参加人数</th><th>内 容</th></tr><tr><td>H31.3.12</td><td>5</td><td>参加者からのお話</td></tr><tr><td>R2.7.21</td><td>8</td><td>亡くされた後の日常のお話</td></tr><tr><td>R2.8.18</td><td>5</td><td>健康講座の紹介等</td></tr><tr><td>R2.9.15</td><td>5</td><td>気持ちの変化、心が動くきっかけ</td></tr><tr><td>R2.10.20</td><td>8</td><td>亡くされた方への思い</td></tr><tr><td>R2.11.17</td><td>7</td><td>ご家族のお話</td></tr><tr><td>R2.12.15</td><td>5</td><td>牧師のお話</td></tr><tr><td>R3.1.19</td><td>4</td><td>大切な方を亡くされた後の様子について</td></tr></table> • 既存の男性介護者向け教室の開催情報や男性も気軽に参加できるサロン活動の情報を広く周知する →ホームページの充実、広報あきしまへの掲載を通じて積極的な情報発信	開催日	参加人数	内 容	H31.3.12	5	参加者からのお話	R2.7.21	8	亡くされた後の日常のお話	R2.8.18	5	健康講座の紹介等	R2.9.15	5	気持ちの変化、心が動くきっかけ	R2.10.20	8	亡くされた方への思い	R2.11.17	7	ご家族のお話	R2.12.15	5	牧師のお話	R3.1.19	4	大切な方を亡くされた後の様子について
開催日	参加人数	内 容																											
H31.3.12	5	参加者からのお話																											
R2.7.21	8	亡くされた後の日常のお話																											
R2.8.18	5	健康講座の紹介等																											
R2.9.15	5	気持ちの変化、心が動くきっかけ																											
R2.10.20	8	亡くされた方への思い																											
R2.11.17	7	ご家族のお話																											
R2.12.15	5	牧師のお話																											
R3.1.19	4	大切な方を亡くされた後の様子について																											



【今後の取り組み】

男性高齢者のみならず、介護者の負担軽減、相談の窓口、情報交換の場の提供は、引き続き充実を図る必要がある。サロンを中心に地域における支援体制の構築や、介護事業所等からの情報収集にも努め介護者が必要とする集いの場や教室等を実施していく。

2. 第8期計画にて取組むべき地域課題

① 認知症関連（重点地域：全地域共通）

◇ 認知症の方が住み慣れた地域で在宅生活を継続するために必要とする支援の充実

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・認知症について気軽に相談できる機関等 ・認知症について幅広く市民への普及啓発する仕組み ・認知症サポーター養成講座受講者の活用 ・認知症の方を地域で見守り支える体制	・認知症初期集中支援チームの活用 ・認知症検診の実施、受診率の向上 ・認知症月間の拡充 ・認知症サポーターステップアップ講座の実施 ・認知症サポーターの活動の場の創出 ・高齢者見守りネットワーク連絡会の活用 ・認知症ケアパスの普及啓発 ・認知症予防パンフレットの配布 ・認知症カフェの立ち上げ支援 ・認知症高齢者個人賠償補償事業

② 移送関連（重点地域：東部、西部、南部、北部）

◇ 外出機会の促進するため多種多様な移送手段の検討。また、移送に頼らなくて済む方法についても検討

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・サロンまでの送迎支援 ・外出支援（買い物、通院サポート） ・徒歩圏内にサロンの開設 ・移動スーパー	・住民主体による支援 ・介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービスB・D） ・各種配送サービスの有効活用の支援 ・サロンの運営支援（立ち上げ支援・運営継続支援） ・移動スーパーの誘致 ・介護事業所等の民間企業への調査研究

③ 活動の場の充実（重点地域：全地域共通）

◇ 市民のニーズを捉えた活動できる場の充実。地域が主体のボランティア組織（お助け隊）の立上げ支援

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・多種多様なサロンの充実 ・ボランティアとして活動する場の充実 ・日常生活支援総合事業の充実 ・地域が主体のボランティア組織	・サロンの運営支援（立ち上げ支援・運営継続支援） ・サロンの現状分析、活動内容の充実を支援 ・地域リハビリテーション活動支援事業の普及（専門職派遣による介護予防活動支援） ・介護予防・日常生活支援総合事業の充実（訪問型サービスB・通所型サービスB） ・地域主体のボランティア組織（お助け隊）の立上げ支援

④ 地域における見守りの仕組みづくり（重点地域：西部、北部）

◇地域で安心して暮らし続けるため、地域における見守りや支援組織の充実

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・地域における見守り活動 ・見守り隊の組織化 ・お助け隊（ちょっとボランティアの立上げ） ・ゴミ出し、電球交換、家具の移動等の支援	・高齢者見守りネットワーク連絡会の活用 ・地域包括支援センターによる見守り支援 ・認知症初期相談窓口チーム員による訪問支援 ・出前講座（介護保険制度・地域包括ケアシステム等）による普及啓発 ・介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービスB）

⑤ 相談窓口の充実（重点地域：東部、西部、北部）

◇各地域に必要なサービスにつなぐ相談窓口の設置。地域に密着した気軽に立ち寄れる相談窓口の設置

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・なんでも気軽に相談できる窓口 ・医療機関や病気に関する相談窓口 ・生活困窮に関する相談窓口 ・夜間休日相談窓口 ・相談窓口マップ	・生活支援体制整備事業の推進 ・地域情報の収集・発信 ・社会資源の見える化（マップ化等） ・地域包括支援センターの周知 ・認知症初期相談窓口 ・医療・介護関係者の研修

⑥ 多職種連携の仕組みの構築（重点地域：中部、南部）

◇様々な職種が連携して支援する多職種連携体制の推進

必要と思われる社会資源	考えられる取組事例
・医療と介護の連携 ・生活支援コーディネーターの活用 ・支援者間の顔の見える関係づくり ・児童、障害、高齢等の枠を超えた体制作り、複合的な課題に対応できる体制整備 ・各地域の連携体制の構築	・在宅医療介護連携構築委員会の充実 ・生活支援コーディネーターの活用 ・障害、こども子育て事業等との連携（地域共生社会の推進） ・異世代交流サロン ・行政内における他部署との連携体制の構築 ・高齢者見守りネットワークの充実